

太田公民館映画研究会

日時 / 場所 (11 月 21 日 (水) 太田公民館大会議室)

監督 黒澤明

映画監督として初めて文化勲章受章、文化功労者顕彰、東京都名誉都民選出、贈従三位（没時叙位）、贈国民栄誉賞。

作品歴

ダイナミックな映像表現とヒューマニズムに徹した作風で、『羅生門』『生きる』『七人の侍』など 30 本の監督作品を生み出し、アカデミー賞と世界三大映画祭（ヴェネツィア、カンヌ、ベルリン）で賞を得た。

小津安二郎、溝口健二、成瀬巳喜男らと共に世界的にその名が知られ、映画史においてはスティーヴン・スピルバーグ、ジョージ・ルーカス、フランス・フォード・ Coppola、北野武などの映画人に大きな影響を与えており、日本では「世界のクロサワ」と呼ばれた。

「酔いどれ天使」の概要 (WIKIPEDIA より転載)

1948 年 (昭和 23 年) 4 月 27 日公開の日本映画である。東宝製作・配給。監督は黒澤明、主演は三船敏郎・志村喬。モノクロ、スタンダード、98 分。

闇市を支配する若いやくざと、貧乏な酔いどれ中年医者とのぶつかり合いを通じて、戦後風俗を鮮やかに描き出したヒューマニズム溢れる力作。黒澤・三船コンビの最初の作品であると同時に、志村が黒澤作品で初主演した。第 22 回キネマ旬報ベスト・テン第 1 位。

作品解説

黒澤明と三船敏郎が初めてコンビを組んだ作品である。三船は 1947 年 (昭和 22 年) の第 1 期東宝ニューフェイスで補欠採用され、同年公開の『銀嶺の果て』（黒澤脚本・谷口千吉監督）でデビューした。この作品で見せた野性的な魅力とスピーディーな演技に驚嘆した黒澤は、三船に惚れ込んで本作の準主役・松永役に起用した。この作品の主人公は医師の真田役・志村喬であるが、準主役・三船の強烈な魅力が主役を喰ってしまった。その志村は黒澤作品としては本作が初主演であった。さらに、作曲家の早坂文雄も黒澤と初めてコンビを組んだのも本作である。黒澤は「ここでやっと、これが俺だ、というものが出たんだな。『素晴らしき日曜日』ではそれが出かかって出なかったような気がする」と述懐しており黒澤作品の個性的なテーマや技法を確立した作品といわれている

時代背景

日本の敗戦から連合軍司令部によって占領下に置かれており日本国中が非常に混乱した時代の話です。